

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 2394500041 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人かなえ福祉会 | | |
| 事業所名 | グループホーム すないの家 尾張旭 ききょう | | |
| 所在地 | 尾張旭市柏井町弥栄256-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 5年 2月 7日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年5月9日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2394500041-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人『サークル・福寿草』 | | |
| 所在地 | 愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号 | | |
| 訪問調査日 | 令和 5年 2月 21日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長いコロナ禍で筋力低下によるふらつきや立位困難者が増えています。職員と共に施設内を共に歩いたり、玄関先まで散歩をして外気浴をする事でリフレッシュして頂けるように努めています。
男性利用者様は中々皆様と一緒に過ごすという事は女性利用者様と比べると少ない為、その中でも男性利用者様が孤立しないようにその方のペースに合わせてレクリエーションや食事準備をして頂く事で皆様在和やかな雰囲気の中、過ごして頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

感染症問題が続いていることで、利用者の外出や外部の方との交流が困難な状況が続いているが、ホームでは、食事に関する検討が行われている。日常的には関連事業所の厨房から提供しているが、職員間でアイデアを出しながら、ホームのキッチンを活用した食事作りの機会を増やしており、利用者の楽しみにつなげる取り組みが行われている。日常の支援については、利用者一人ひとりに合わせた介護計画の内容を検討することができるように、定期的なモニタリングの際には、専用の用紙も活用しながら職員全員で実施する取り組みが行われている。また、当ホームでは、複数の医療機関との連携が行われていることで、利用者の様々な状況等に合わせた受診や入院等の対応が行われており、身体状態が重い方もホームでの生活を継続できるような支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|---|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ※コロナ禍の為、対応不可 | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ※コロナ禍の為、対応不可 | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。 | 法人と事業所それぞれに理念がある。法人理念に関しては事務所に貼付しており、事業所理念に関しては社員証に挟んでいる。また各自理念に基づいた目標設定をしており、ケアを行う際に随時確認できるようにになっている。 | 運営法人の基本理念の他にも、ホーム独自の理念がつけられており、職員間で理念の内容を共有する働きかけが行われている。また、職員一人ひとりが自身の目標をつくる取り組みも行われており、理念の実践につなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。 | コロナ禍の影響で利用者が実施する事は難しいが、職員に関しては早朝時の外の清掃を行う際に地域の方と挨拶を交わす等の関係性がある。また、町内会の事に関しては回覧板などで随時共有している。 | 地域の方との交流が困難な状況が続いているが、例年は、併設事業所とも連携しながら交流が行われている。市内の学校の実習生の受け入れは行われており、現状で可能な範囲で外部の方との交流を継続している。 | 例年は、地域の保育園との交流や地域の行事を通じた交流が行われていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、地域の方との交流が再開されることを期待したい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。 | 施設にていつでも相談できる体制に努めている。 入居希望以外の方でも話を聞く事で安心感を持たせられるように援助を行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | 運営推進会議に関してはコロナ禍の影響で書面のみでの提出となっている。その為、状況等はわかりやすく丁寧に記入する事を心掛けている。 | 会議は書面による実施が続いており、関係者に書面を通じて運営状況等の報告が行われている。会議を併設事業所と合同で実施しながら、市職員をはじめとする会議の関係者との情報交換等が行われている。 | 会議については、書面による実施が続いていることもあるため、市担当部署とも確認も行いながら、段階的に再開に向けた取り組みにつながることを期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。 | 不明点などがあれば連絡し指示を頂いている。また研修会の案内やコロナ関連を始めとする情報もメールで頂く事ができ情報収集に繋がっている。 | 市担当部署や地域包括支援センターとの情報交換等については、併設の関連事業所とも連携しながら行われている。ホームの管理者が併設のショートステイの管理者も兼務していることもあるため、様々な状況等にも合わせながら情報交換等が行われている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 施設全体で入所前にリスク説明を家族にする際に身体拘束をしない事も書面に謳っており、了承を得ている。 また勉強会により身体拘束の重要性を各職員が把握している。 | 身体拘束を行わない方針で支援が行われており、平面でつながった両ユニットを自由に移動ができるように、職員間で利用者の見守りが行われている。また、関連事業所とも連携しながら身体拘束に関する定期的な検討や職員研修が行われている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 身体拘束同様、定期的に勉強会を行っている。 また委員会を通じて虐待防止の重要性を確認したり、ユニットで疑問がある際は事例を用いて話し合う機会を作っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。 | 現在は成年後見制度を利用されている方はいないが、市役所より勉強会などの通知が来ることがある為、目を通すようにしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 契約時は特に時間を費やし家族が理解されるまで説明するように努めている。改定時は都度同意書に署名を頂いており、そこで疑問点がある際は改定する根拠を直接お話しし、理解を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | リモート面会に来られた家族にはそこで要望がないか可能な限り確認している。他にもお便りで日頃の様子を発信したり、電話連絡の際に家族に要望がないかを声掛けをしている。 | 現状、家族との面会等に関しては徐々に緩和に向けた検討が行われている段階でもある。家族からの要望等については、管理者が対応し、必要に合わせて施設長に報告している。また、毎月のホーム便りの他にもブログの更新が行われている。 | 家族との交流が困難な状況が続いていることもあるため、共用スペースも活用しながら段階的に制限を緩和し、家族との交流の機会が増えることを期待したい。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 毎月行うリーダー会議でユニットでの困り事などの意見交換を行っている。また、年に2回施設長が職員一人ずつ面談を行っており、そこで現場の声を聞く事で施設運営向上に努めている。 | 毎月のユニット毎で会議を行いながら、リーダーが職員からの意見等を把握し、管理者を通じて業務改善等につなげる取り組みが行われている。また、施設長による職員面談の機会もつくりながら、職員一人ひとりの把握につなげる取り組みも行われている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。 | 施設長が積極的に職員に話し掛けを行い、職員一人ひとりの状況把握をしている。またユニットで困っていることなどがあるとアドバイスしてケアの向上に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 法人全体でオンラインでの研修を取り入れており、各職員がそこで学んだ内容をまとめて施設長は随時確認して今後の介護に活かすようにアドバイスをしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 | ZOOMで行われる施設部会に定期的に参加し、そこで情報の共有に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。 | 利用者から職員に気軽に話掛けが出来るような関係づくりに努めている。 職員は日常の些細な事でもつぶやきとして拾い上げ、他職員とユニット会議などで共有するように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。 | コロナ禍で満足に面会もできず、また居室の状況もわからない現状の中でタブレットを使用してユニット内や居室内を見て頂いたりしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 支援していく中で何が一番かの優先順位を見極めユニット内で把握し取り組んでいる。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。 | 共同生活をしていく中で家族と同じように気軽に話したり、笑い合える関係づくりに努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。 | お互いが気を遣わないように関係作りに努めている。 また本人にとってどうする事がいいのかを家族と話し合い、知りえた情報を他職員に申し送れるようにしていきたい。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | コロナ禍で満足に面会ができていない為、関係性の継続が難しくなっている。 | 現状、外部の方との交流が困難な状況が続いているが、利用者の中には、電話や手紙等を通じて交流を継続する等、可能な範囲で関係継続の機会がつけられている。また、身内の方の冠婚葬祭に出かける等、家族との外出の機会もつけられている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。 | 一人ひとりの性格もある為、時には対応が困難になる場合もあるが、職員が間に入り解決できるような関係づくりに努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。 | 退去時に今後も何か相談事があればいつでも施設に来訪していただければとお伝えしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 日々の関わりの中で表情や言動から利用者の想いを汲み取るように努めている。確認ができない方は家族と利用者本位となるように話し合いをしている。 | 職員全員で利用者に関する意向等の把握を行いながら、日常的に職員間での共有が行われている。また、毎月のユニット会議を通じたカンファレンスを実施しており、利用者や家族に関する意向等の検討を行いながら、日常の支援につなげている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | これまでの暮らしや生活環境について家族や利用者から詳しく話を聞き、職員間でその情報を共有している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。 | 利用者のできることに目を向け、コミュニケーションを取りながら利用者一人ひとりの生活のリズムの把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。 | ユニット職員が利用者それぞれについてモニタリングを行い、目標の修正やケアの仕方について意見を交換してケアプランに反映するように努めている。 | 介護計画については、6か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。また、モニタリングの際には、職員に専用の用紙を配布する取り組みが行われており、利用者に関する状態変化等のチェックにつなげている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 日々の様子を個別に記録して職員間で情報を共有しながら利用者にとってより良いケアを目指すようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。 | 利用者一人ひとりに希望を聞き、出来る事を最大限に柔和姿勢で対応ができるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | コロナ禍になる前には、ボランティアの受け入れを数多くしており、交流も盛んであった。季節の行事などで利用者個々の力量を発揮している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | 施設の往診医もいるが、希望があれば個別の掛かりつけ医へ通院ができるよう援助している。 | ホームでは、複数の医療機関との連携が行われており、定期的な協力医の訪問の他にも、利用者の健康状態に合わせた入院等の支援も行われている。また、協力医療機関や併設事業所の看護師との連携も行われており、医療面での支援につなげている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。 | 併設特養の看護師に利用者の状態を随時伝えている。体調や表情の変化を見逃さないよう利用者の注視は怠らないようにしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には退院後の生活を見据えて家族や入院関係者と連絡を取り合い、情報共有に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。 | 現状、看取りケアは行っていないが、重度化した場合に向け家族と話し合いを持っている。また、日常生活動作が困難となった方に関しては家族と話し、併設特養へ転居の提案をして、円滑に次の生活ができるように援助を行っている。 | 身体状態の重い方についても、ホームで可能な限り支援が行われているが、現状は看取り支援には対応していない内容の説明が行われている。協力医療機関との連携を深めながら家族との話し合いを重ね、次の生活場所への移行支援が行われている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。 | 急変時に備えてマニュアルが備えてある。また、実際対応した後に反省点なども考慮しながら次回に繋げられるように努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 | 避難訓練は日中・夜間想定共に定期的に行っている。また、本施設が地域の福祉避難所となっている為、地域との連携も課題としてあげている。 | 年2回の避難訓練については、併設事業所との合同で実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認も行われている。非常災害時には地域の方との受け入れも想定した対応が行われている。事業所全体で水や食料等の備蓄品の確保が行われている。 | 感染症問題が長期化していることもあり、地域の方との交流が困難な状況が続いているため、非常災害に関する協力関係についても、今後に向けた取り組みに期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。 | それぞれの性格や思いを把握し、その事に理解し、配慮しながら対応している。 | 運営法人の基本理念でもある「謙虚」「献身」「堅実」を職員による利用者への支援の基本に考えながら、利用者を尊重した言葉遣い等につなげている。また、日常的にも管理者やリーダーからの注意喚起等の取り組みも行われている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。 | 本人が思いや希望を話せる関係を作り、相談に耳を傾ける事やこちらから提案して自己決定ができるように支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。 | 利用者一人ひとりのペースを大切にして援助している。 また個々の生活のあり方を理解した上で出来る範囲で援助をしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。 | 更衣時は利用者と一緒に服を選んで利用者本人に自己決定を促すようにしている。 また整容時も洗面台に向かい、鏡を見ながら自分でチェックして頂いたり、月1回の訪問美容ではカットやカラーなど自身で決めて頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 個々の能力に合わせご飯炊きやみそ汁作り、副食の盛り付け等を行っている。準備をしている際は日常会話をしながら楽しい雰囲気作りができるように努めている。 | 食事については、併設事業所の厨房から提供されており、季節等にも合わせた食事や利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。ホームのキッチンを活用した食事やおやつを提供の機会を増やしており、利用者の楽しみにつなげている。 | ホームのキッチンを活用した食事作りの取り組みが行われており、職員間で様々なアイデア等も出されている。利用者の楽しみにもつながるため、食事に関するホームの継続的な取り組みに期待したい。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 個々の食事量を把握し、摂取量が少ない方には盛り付けの際に始めから食べられる量のみにしたりと工夫している。水分量に関しても少ない方にはゼリー等で賄えるように努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。 | 毎食後、一人ひとりに声を掛け口腔清潔に努めている。 また必要な方は職員がお手伝いしたり、歯科の往診医に診てもらったりと対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。 | 羞恥心に配慮しながらもご自分で動作が行えるように支援している。 パターンを把握する事は今後の課題でもあるが、できる限りで排泄用品などを使用せずに自立した排泄ができるように努めている。 | 居室内にトイレの設置が行われていることもあり、利用者一人ひとりに合わせたベッド等の配置を検討する等、トイレでの排泄を継続する支援が行われている。また、排泄に関する医療面での連携も行われており、排泄状態の維持、改善につなげている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。 | 日々の体操や運動により日常的に体を動かしていただくように努めている。また、水分摂取量も把握し、少ないようなら促す等の声掛けをしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。 | 強制する事なく入浴して頂けるように楽しく会話をしながら誘導し実施している。 それでも拒まれる方に関しては職員を替えたり時間や日を改めて対応している。 | 月曜日から土曜日を基本に準備を行っており、利用者が週2回の入浴が確保できるように、入浴を拒む方にも声かけを行いながら定期的な入浴につなげている。浴室に特殊浴槽が設置されていることで、利用者の身体状態に合わせた対応も行われている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。 | 日中に様々な活動をする事で夜間帯に安心して休んで頂けるように日々のサイクルを大切にしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 利用者一人ひとりの薬の内容や病状を把握する事が大切だが、中々把握しきれていない現状である。 今後の課題として上げる必要がある。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。 | 家事の役割をされる方、レクリエーションで力を発揮される方等、楽しみが作れるようにそれぞれに合った支援を行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。 | コロナ禍の為、外出はできていないが、玄関先まで散歩をしたり、ベランダに出た際に日光浴をしたりしている。 また、病院受診の際には服装に気を付けて出かけてもらうように支援している。 | 利用者の外出が困難な状況が続いているが、ホームの建物の駐車場を舗装したことで、利用者の散歩の機会にもつながっている。近隣の公園まで出かける機会をつくっているが、敷地内に危険な場所もあり、現状は限られた範囲となっている。 | 利用者の外出が困難な状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | 家族と相談し、財布を所持されている方もいる。なかなか買い物に行けていない現状ではあるが、移動パン屋や施設内の自販機を利用する際に現金を使用している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 携帯電話を所持されている利用者に対し、使用方法や通話の際に利用者の近況報告を行う等の支援をしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 時季に沿って環境作りにも配慮している。共同スペースや居室温度は常に利用者に向いながら適切な室温となるように努めている。 | ホーム内は、限られた広さとなっているが、出入り口から出た場所にプランター等を設置する等、利用者がリビングから外に出る機会につなげている。また、季節のある飾り付けや利用者の作品を掲示し、アットホームな雰囲気づくりが行われている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | それぞれ個々の性格、性質に配慮しながら席の配置に考慮し、一人ひとりが楽しく過ごせるように工夫をしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 自宅から使用されていた家具などを持ち込みも可能な為、積極的に持ち込んで頂いている。また、過ごしやすい環境にするように配置なども本人と相談しながら行っている。 | 居室については、トイレと洗面台の設置が行われていることもあり、一人ひとりに合わせた家具等の配置が行われている。利用者の中には、家族との写真を飾っている方もいる。また、居室にベッドが設置されていることもあり、現状、全員の方がベッドで生活している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | 居室の場所がわからない方の為にネームプレートを扉に付けたり、それでも困難な方にはフロア内の目の付くところに印を付けたりしている。 | | |